

2019年3月8日 金曜日

講演メイン③

「コーサー小椋 情報統括部部長 × ラック社長 西本 対談 in 道後～平成 ICT 温故知新、新時代を考える～」というテーマで小椋敦子氏（講師）と西本逸郎氏（コーディネーター）による講演が行われた。日本を代表する CIO の方をお招きして IT の利活用や技術進歩について伺うことが趣旨であると西本氏から説明があった。



小椋氏により、IT 利用の目的は、システムを利用して業務上の効果・成果を出すことであり、スピード感やコストを抑えることを意識していることが説明された。マーケティングではセキュリティを考慮し IT 導入が進んでいるが、製造はまだアナログで進めている。新しい技術導入では、事業会社として、それをどう事業に生かしていくかという観点で目利きできることが必要である。また女性の働き方やキャリアの積み方に関する議論も行われた。

講演メイン④

産業技術総合研究所 森 彰氏により「サイバーフィジカルシステムにおけるセキュリティ」に関する講演が行われた。

サイバーフィジカルシステム (CPS) とは大規模データを使ってサイバー空間と物理空間の間で制御を行うシステムのことである。具体的にはスマートグリッドや高度道路交通システム (ITS)



やスマート農業などがあげられる。

IoT セキュリティでは、更新されないセキュリティパッチ、古い OS などの問題、組み込みプロセスの利用、IoT 機器の検索サイトの存在などが脆弱性の問題として挙げられる。攻撃の要因としては、ソフトウェア脆弱性、マルウェア、パスワード管理、暗号・認証プロトコルの不備などである。自動車、医療など IoT 機器のインシデント事例が紹介された。対策としては、セキュリティホールが見つかって修正できるセキュリティライフサイクルを考慮した設計や OS・コンパイラレベルでの対策などがある。

ナイトセッション総括パネルディスカッション

森井先生の司会で、各テーマの座長からナイトセッションで行われた議論の総括が報告された。



質疑では、アップデートで事故的に悪性プログラムが混入する場合の対策、犯罪の低年齢化、仮想通貨の被害が日本で多い原因について、仮想通貨で注目されている攻撃方法などの質問があり、座長との議論が行われた。

最優秀学生研究賞 表彰式

会場の投票により筑波大学 矢倉大夢氏が最優秀学生研究賞として表彰された。



閉会挨拶

最後に、副実行委員長 宮内隆氏により閉会の挨拶が行われた。

